

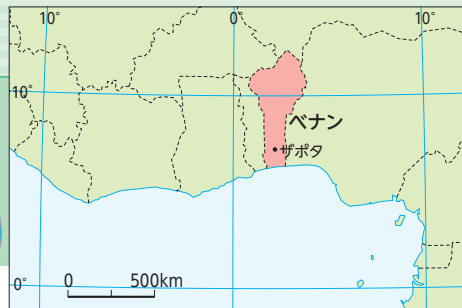
国際協力の
最前線+α

7



子どもたちに学ぶことの楽しさを

青年海外協力隊に参加した
たかだ ひろふみ
高田裕行さん



Q ベナンでの青年海外協力隊としての活動と、ベナンが抱える課題について教えてください。

小学校を巡回して、現地の先生方とよりよい学校教育をめざす活動をしています。西アフリカのベナンは、2007年に初等教育の無償化が始まり、ほぼすべての子どもが小学校に入学できるようになったのですが、学年があがるにつれて児童の人数が減っていく傾向にあります。授業についていけない、日中は家の手伝いをしなければならないなど、その理由はさまざまですが、その結果、勉強を続けられなくなった子どもたちは、かけ算などの基礎的な計算ができないだけでなく、ベナンの公用語であるフランス語も身につかないままとなります。

そうすると彼らは将来、単純労働にしかつづかず、低収入の生活を強いられることになり、その家に生まれた子どもたちもまた、家や仕事の手伝いで学校に通えなくなります。私が果たすべき役割の一つは、この貧困の連鎖を打ち切ることだと考えています。

Q 学校ではどのような取り組みをしているのでしょうか。

私は体育や算数の授業のサポートに取り組んでいます。生徒の成長を喜ぶ姿はベナンでも日本でも教師に共通しますし、おもしろい授業に熱中する様子はどちらの国の生徒も同じです。一方で、私の赴任した地域の学校では、教科書をただ黒板に書き写すだけの授業や、生徒の理解度に応じた説明をせずに正答のみを伝える授業もみられます。そうした授業では子どもたちは退屈してしまい、学ぶことの楽しさを実感しづらくなってしまいます。そ

こで、授業の改善のお手伝いをしています。日本の授業スタイルがどこでも万能とは限らないので、ベナンの習慣や先生の考え方に適するスタイルを模索しながら授業の題材や教材の提案をしています。

Q 青年海外協力隊の活動に興味をもったきっかけを教えてください。

2011年の東日本大震災のあとのボランティア活動に参加していたとき、多くの外国人のボランティアの方々が見て、国際協力という分野に興味をもつようになりました。ベナンの人々との交流からも気づかされましたが、外国でおこっている問題を自分のことのようにとらえ、関心をもつ「当事者意識」こそ、地球的課題の解決に向けた国際協力において大切なことだと思います。



1 生徒が楽しめるようにクイズ形式のプリントを用意した算数の授業の様子(ベナン、2018年)

2 日本の文化を体験する授業を楽しむ子どもたち(ベナン・ザポタ市、2019年) 2時間の授業で、1時間目は習字(上)、2時間目は折り紙と紙飛行機とばし(下)の授業が実施された。